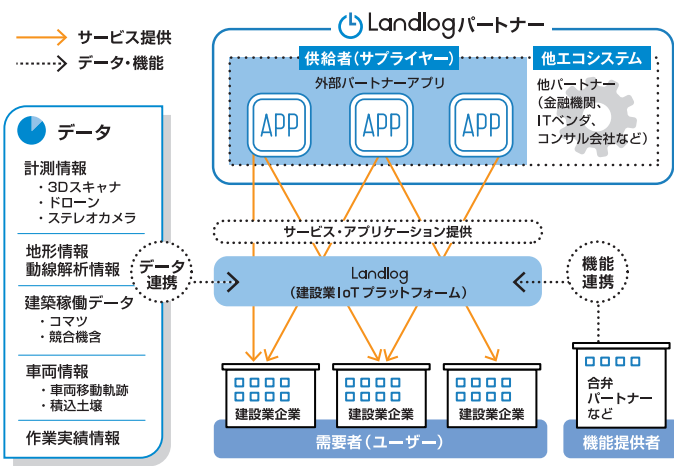


ランドログプラットフォーム

建設分野に特化した、誰もが利用可能なオープンプラットフォーム。様々なデータの収集・蓄積・解析の機能をオープンにすることで、多種多様なプロバイダーがアプリケーションを開発・実装できます。センサや計測器等のIoTデバイスから取得されるデータのみならず、環境・地形・資材・スタッフといった建設生産プロセスに関わるすべてのデータを取り込むことができ、さらに他のプラットフォームとも連携可能。複数のデータを一元管理し、ランドログやパートナー様が提供するアプリケーションによってデータを可視化します。また、企業・プロジェクト単位でデータを管理でき、ユーザーごとにID権限管理が可能です。



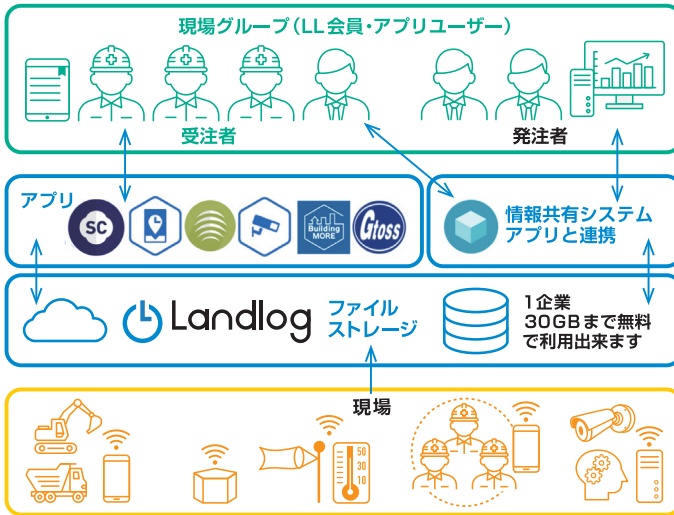
NETIS

建設生産プロセス改善のためのIoTオープンプラットフォーム「ランドログプラットフォーム」  
登録番号:QS-210052-A

あらゆる現場の多彩なデータを手軽に“見える化”して一元管理!

ファイルストレージ

ランドログプラットフォーム上に企業・プロジェクト単位で作成できるストレージです。利用者により設置する/された様々なIoTデバイスからのデータ、また企業様がすでにお持ちのデータを集約して格納することが可能に。また、格納されたデータは、ランドログビューアをはじめとする様々なアプリケーションに連携させ、可視化できます。



ランドログビューア | 対応拡張子

ランドログプラットフォームに集まる2D・3Dデータを一元管理・可視化できるランドログビューアは、多くのファイル形式に対応しており、今後お客様の要望を聞きながら、対応できる形式を順次拡張していきます。建設分野の調査・設計・施工・維持管理の建設生産・管理プロセスにおいて汎用的にご活用いただけます。

種別	拡張子	備考
LASer	.las / .laz / .zip	zipは複数のlasを格納したZIPファイルです。ファイルによっては、対応しない場合があります。
LandXML	.xml	
GeoTiff	.tiff / .tif / .zip (tiff, tif, tfw, jpg, jgw)	zipは複数の位置情報を有するtiffファイルか、ワールドファイル(tfw, jgw)付きのtiff, jpgを格納したZIPファイルです。また、DEMデータであれば統合地形として登録することも可能です。
DXF	.dxf	
CityGML	.gml / .zip	zipは複数のgmlを格納したZIPファイルです。
KML	.kml / .kmz	
SHAPE	.zip	zipは.shp/.shx/.dbfを格納したZIPファイルです。
CZML	.czml	
GeoJSON	.geojson / .topojson / .json	
3DTiles	.zip	空間データ構造を持つバイナリデータとJSONを格納したZIPファイルです

(順次対応データを拡張中)

●本パンフレット掲載の画面・画像・イラストなどはイメージです。●製品・サービスの内容は予告なく変更となる場合がございます。●掲載の会社・団体・製品・サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。

製品・サービスに関するご相談や導入のご検討について詳しくはお問い合わせください。



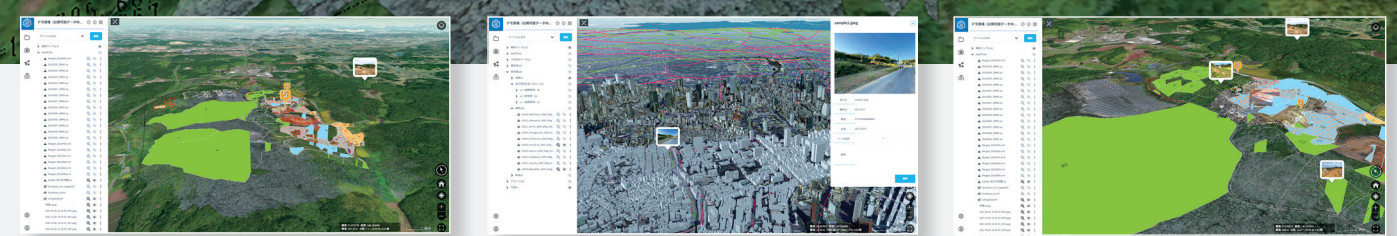
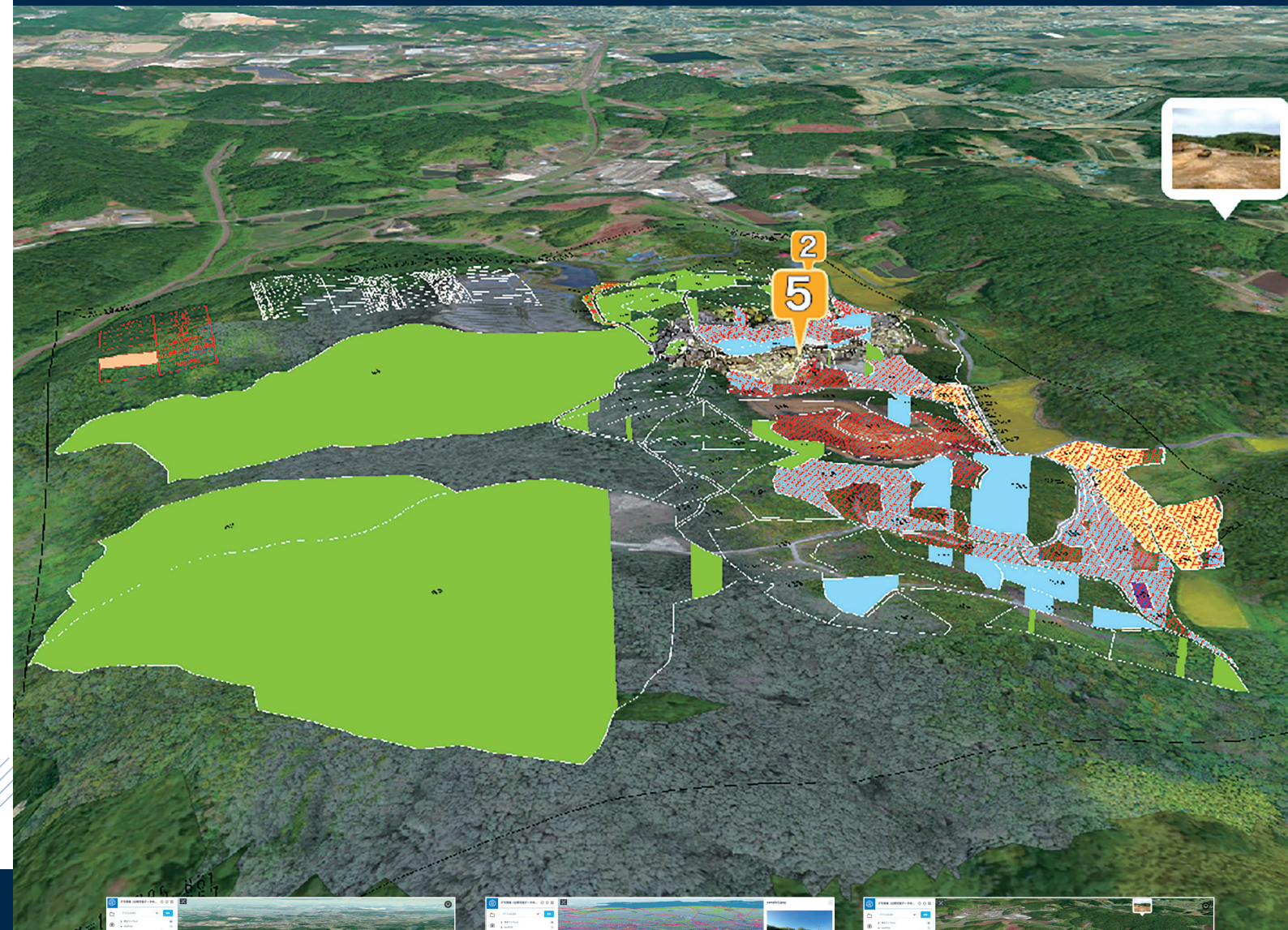
株式会社EARTHRAIN  
ランドログカンパニー  
〒106-6029  
東京都港区六本木一丁目6番1号泉ガーデンタワー 29階



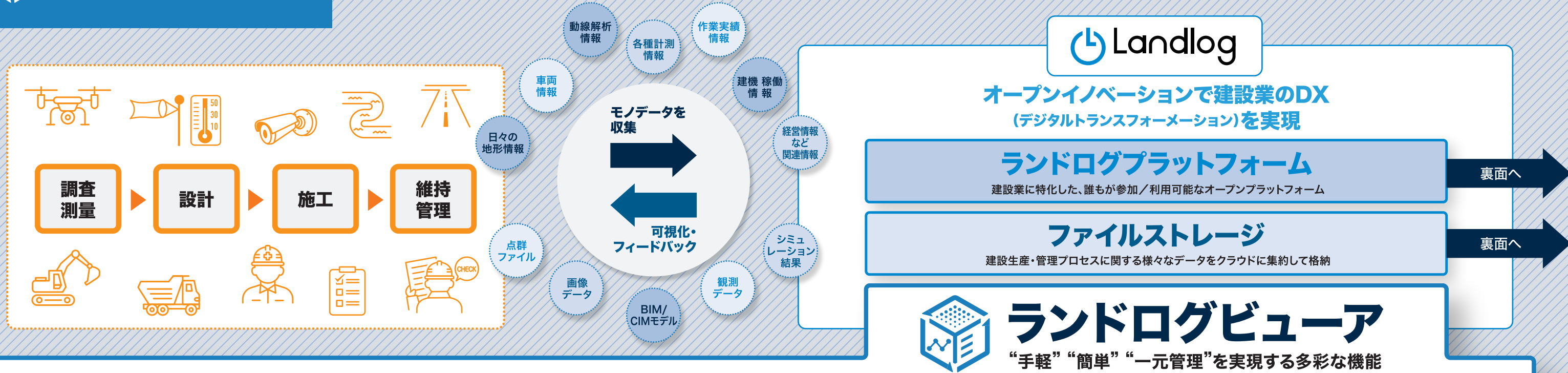
ランドログホームページ  
<https://www.landlog.jp/>



お問い合わせ

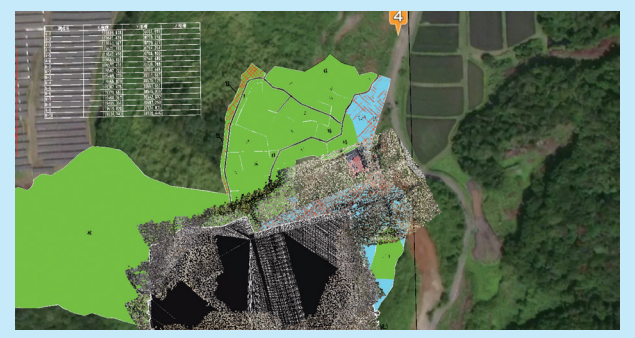






## 1 2D・3D、すべての電子データをマップ上で「見える化」

3Dモデルや点群データ等の3Dデータの表示に対応するだけでなく、現況写真や点検写真等、平面図や縦横断面図等の2Dデータも、マップ上にアイコンを設置し、格納することができます。



## 2 地図上に旗揚げ(アノテーション)を表示

地図上の任意の地点に旗揚げ(アノテーション)を設置し(例:アイコン・線・矢印・多角形・テキスト)、それぞれのデータをプラットフォームに格納できます。3Dデータに加え、写真や帳票、図面等の2Dデータへのアクセスも可能。また、任意エリアの計測や土量計算にも利用できます。



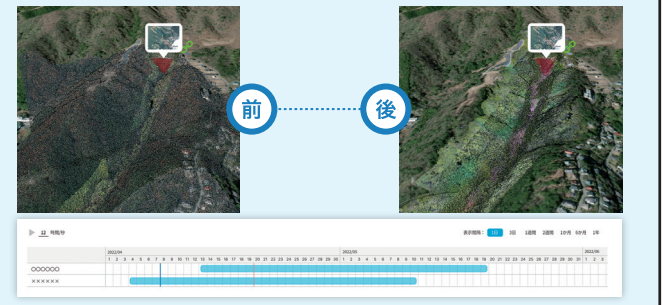
## 3 3Dデータを利用した土量(体積)計算

LASerやLandXMLなどの3Dデータを対象として、任意のエリアの土量計算を行えます。計算したいエリアを多角形で選択し、現況地形と完成形状(変化後の地形)のデータを指定することで、切盛土量を算出でき、次のステップに活用できます。



## 4 2D・3Dデータの時系列(タイムライナー)表示

2D・3Dデータの入力時に時間軸を設定することで、過去に計測したデータと“今”のデータを時系列的にタイムライン形式で表示。過去と現在の計測データや横断面図を比較表示することで、その変化を確認できます。また、計測データをプラットフォームに継続的に格納することで、今後の維持管理データとしても活用可能です。



## 5 多彩な地形表現

日本全国、さらには世界中の3Dの地形表現を標準で実装。また、国土地理院の基盤地図数値標高モデル(5m・10mメッシュDEMデータ)を標準で利用することもできます。さらに、航空測量で取得した高精度DEMデータを活用し、より高精度な地形表現を実現。等高線や勾配表示することで、効率的な検討や議論に役立ちます。



## 6 モデル空間の公開機能

構築した空間情報は閲覧可能なデジタルアーカイブとして外部に公開することが可能です。公開設定したプロジェクトの公開URLを発行することで、インターネット環境さえあれば、いつでも・どこでも・誰でもアカウントを作成することなくランドログビューア上で空間情報を閲覧できるため、関係者への情報共有や公開に活用いただけます。



## 7 多彩なデバイスと連携

標準でEARTHRAINが提供するIoTデバイス群と連携しています。また、水位計や変位計等のセンサから取得した情報を連携させることで、インフラ構造物の変状を「見える化」します。さらに、カスタマイズすることで、その他のIoTデバイスやセンサと個別に連携させ、ランドログビューア上に必要な情報を表示することもできます。

### ～個社向けカスタマイズ(個別相談)～

ランドログカンパニーでは、ランドログビューアの販売やデバイス連携の協業だけでなく、アプリケーションの各社様向けカスタマイズも行っております。例えば、各企業様保有のセンサと連携し、グラフ化する・アラートを表示する等の目的に特化したカスタム開発を行い、実行環境やアカウント(Landlog認証)を提供できます。お気軽にご相談ください。

